

令和7年度第1回会津美里町観光まちづくり推進協議会 開催記録

日時：令和7年6月24日（火）14時00分～15時50分

場所：会津美里町役場 2階大会議室

出席者：9名/12名

事務局：5名

1. 開会

2. 町長挨拶（副町長代理挨拶）

皆様には、日頃より本町の観光行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

そして、第1次計画の10年間にわたり、会津美里町の観光振興計画の進捗を温かく見守りいただき、深く感謝申し上げます。

過去10年は、中国を中心とする爆買い需要に始まり、世界的な未曾有のコロナ禍により世の中の様々な形態や様式が大きく変化しました。観光の在り方も団体旅行から少人数や個人旅行に移行し、個々の趣向に応じた旅行スタイルが主流となってきております。

今年度は第2次観光振興計画となる新たな10年の指針を策定する大切な年となっております。町内では飲食や宿泊事業者の減少が続いており、観光を取り巻く状況も厳しいものですが、観光振興は農業や商工業の活性化にもつながるよう重要な施策であると考えております。

本計画の策定にあたりましては、皆様から幅広いご意見を頂戴しながら進めて参りますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本日の会議が実り多きものとなり、今後の観光振興に向けた第一歩となりますことを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

3. 委員紹介

各委員自己紹介を行った。

4. 委員長及び副委員長の選出

委員長はA委員、副委員長はD委員となった。

5. 議事

(1) 第1次観光振興計画の振り返りと課題について

事務局より以下の点について説明。

①概要

令和3年度から令和7年度までの後期観光振興計画では、4つの施策と9つのプログラムを設け、3つのアクションプランと11のプロジェクトを策定し推進してきたが、結果として一部達成できたものもあったが、十分に成果は得られなかった。

②基本目標の達成状況について（令和6年度）

各指標の目標値、実績値、達成率、実績値の分析について説明。

③各施策別の個別目標の達成状況について（令和6年度）

各指標の目標値、実績値、達成率、実績値の分析について説明。

④アクションプランの実施状況について

3つのアクションプランの各プロジェクトの実施内容及び評価を説明。

⑤観光振興計画の課題について

後期観光振興計画の中で実現できなかった点、実感として効果を感じられなかった点の要因について説明。

（2）第2次観光振興計画の方針について

（事務局）

・第2次観光振興計画はゼロから作り直すというよりは、第1次観光振興計画をベースに策定していく。

また、前段の考え方として、一つ目に行政側と民間側で両輪を出して機能していかないと、町の活性化、観光の活性化には繋がらない。基本的に行政の役割としては、誘客のための仕組み作りや体制の構築といった環境整備に重点を置いていくことが望ましいと考える。それにより観光客が町に来訪するようになった際の地域の経済活動のメインを民間で行っていく必要がある。

二つ目として、予算やマンパワーに関して限度があるというところ。人口減少や人口流出によりこれからの町の歳入は減少していくため、予算は十分にあるものではない。また、高齢化が進み、マンパワーもなくなっていく。観光施策を考える上で、宿泊や買い物するところの充実化、新事業の形成、地域資源の魅力向上など様々な方針があるが、その全てを実行することは難しい。そのため、選択と集中という考えのもと、第1次観光振興計画から重要政策を抽出していく。

三つ目として、偏った見方をするのではなく、町全体を俯瞰した議論が必要であると考えている。これまで3地域でそれぞれが様々な事業を展開しており、それら自体は一定の評価をされる場所である、一方でそれらを横に繋ぐような意識の希薄さが少しあり、一体感のない点での誘客事業に陥っているということが見て取れる。会津美里町の観光というところで考えたときに、非常に勿体ないような展開をしているので、3地域が起点となり誘客を図った際に、他の地域にも足を運びたいような仕掛けづくりを戦略的に構築していくことが必要ではないかと考える。

最後に、会津美里町単体での観光誘客には限界があると感じる。現状の会津美里町において

町単体で考えた時に、観光地としてお客さんに選択してもらえる可能性は今のところ極めて低く、認知度も低いのではないかと。ただ一方で立地的な強みで、会津という県内屈指の観光地に立地しているであるとか、会津観光で最大の鶴ヶ城がある会津若松市や大内宿がある下郷町に隣接しているため、そこまで来ている観光客を誘客でき、また、伊佐須美神社や向羽黒山城跡などを最大限に活用することで全国と競合できるポテンシャルがこの町にはあると思う。

・第2次観光振興計画の方針についての説明

(委員長)

事務局で説明したことについてのご意見を委員の皆さんからお聞きしたい。副委員長から願います。

(副委員長)

概ねこの方針でいいのではないかと思うが、メインターゲットの絞り込みの中で新たな観光客、インバウンドとあるが、もう新たな観光客でインバウンドはないと思うので、インバウンドは周辺まで来ている観光客の中に含んだ方が今後望ましいのではないかと。インバウンドは遠い存在だと思っていたが、コロナが明けたらものすごい速度で来ているので、やはりインバウンドは取り込んでいかないと日本人の観光を増やしていくことは不可能に近いのではないかと。インバウンドが会津若松市、大内宿まで来ているのに、美里町がターゲットとならない理由を分析することは早い段階で必要なことである。

(委員長)

次にB委員の意見はどうか。

(B委員)

観光振興計画の課題1についてだが、観光協会の理事の方に話したら相当腹立つのではないかと。観光協会は町ではできない部分を請け負っている。町として、どのように観光誘客を行っていくのかを示していただきたい。それが成り立っていないのであやふやな部分がある。観光協会はイベントで始まってイベントで終わるみたいな形を捉えられがちだが、会津西街道連絡協議会を会津若松市と下郷町と美里町で設立し、広域連携を図り各市町に誘客する仕組みづくりなどを行っている。

町にお金を落としてもらうにはどのようなことを行っていけば考えていくには、やはり町の協力もないと民間の力だけでは難しいので、そういった部分をこの協議会で考えていきたい。

(委員長)

本来は観光事業者というものが町の観光を引っ張り、それを観光協会や町がサポートすることが理想だと思うが、残念ながら美里町には観光事業者という肩書きは極めて少ない。よって、そういうことを踏まえて観光協会として取り組んでいくことを、次の計画の中で議論していかなければならない。

(D委員)

方針の中の観光協会の体制見直しという言葉が勘違いを呼ぶ言葉ではないかと思う。体制支援とか強化という言葉の方が好ましいので、その言葉を訂正していただきたい。

(委員長)

次にE委員の意見はどうか。

(E委員)

来年の4月から6月まではデスティネーションキャンペーンの期間である。それにちなんで、美里町はどんな魅力を発信したいのか、どんな取り組みを行っているのか。観光というものは何を行えば観光客が増えるのか、私が長年、観光ドライバーとして携わってきた中で分かることは、体感と買い物はセットである。美里町に足を運ばないとないような魅力的な名物やお土産が必要なのではないか。そういうところで物産館や道の駅も必要でないかと思う。それが、美里町の経済効果に繋がるので今後考えていただきたい。また、B委員から話があったように、観光は美里町独自だけではなく近隣市町村と連携して、広域的にPRした方が効果的なのではないか。特に三十三観音の一つである、会津の清水寺と言われる左下り観音を観光スポットに挙げ、美里町のモデルコースを作ることも必要であると思う。

(委員長)

次にF委員の意見はどうか。

(F委員)

やはり私も美里町だけで観光誘客を行うのは、力が弱いと思う。B委員がお話しされた会津西街道連絡協議会についてだが、2～3年前にB委員から会津若松市と下郷町と広域で何かを行っていききたいということは前もって話を聞いていて、ぜひそれは美里町としてもプラスになることだと思うので、どんどん前に進めてくださいとお話した。今回、この協議会に阿部さんが入って、広域的にと行っていただいて、私的には今までより少しスピードを上げて話を進めていけるようになるのではないかと思う。

(委員長)

次にG委員の意見はどうか。

(G委員)

私は本郷地域の事業者であり、公益というよりも私たちが関わっている場所の魅力を引き上げることを行っていくポジションであると思っている。広域的な連携は私たちではなく、観光協会や役場が行っていくことであると思っている。

本郷高田新鶴それぞれの事業者さんがしっかり魅力を高めていき、その上で広域連携してお客さんが来る循環が生まれないと、広域でお客さんと呼んでも大したことないみたいな形になっても、一過性のものになってしまうのでは。そこはそれぞれのプレイヤーが力を入れて頑張っていけたらいいのではないかな。

先ほどの観光協会の話だが、観光協会が様々なことをできる体制づくりはやはり行っていった方がいいと思う。観光庁の補助金などを活用して動ける体制をつくることは重要なことなのではないかと思う。

(委員長)

先週か先々週あたり、宗像窯の8代目の方が日本橋三越で個展をされていた。だが、残念ながら、美里町の資料が何もなかった。本郷焼の背景には会津美里町があるということをアピールできなかったことは残念。会津美里町をPRするチャンスがあったはず。本郷焼をアピールするだけではなく、美里もアピールするようなそういう連携ができるといいなと思う。

次にH委員の意見はどうか。

(H委員)

私は会津美里こらんしょウーマンの代表として、この協議会に参加している。今はマルシェを行っている団体になっているが、元々9年前に立ち上げたときは情報発信や町の魅力を外部の人に伝えようというところが最初のスタートであった。そのうちマルシェの方が面白くなってきてしまってマルシェメインになってきた。コロナが明けてから、あちこちと同じようなマルシェが開催されていて、マルシェが乱立しているので、他のマルシェと差別化させて人を呼ぶ工夫をしている。

マルシェは観光かとなると、マルシェは1日、2日で終わってしまうものなので、果たしてこれが観光に繋がっているのかとなると、この場においていいのかどうか疑問ではあるが、もともと町の観光をPRしていたところもあるので、個人として何ができるのかを考えていきたいと思う。

(委員長)

次にK委員の意見はどうか。

(K委員)

大体の方は会津に来るとなると、会津若松市や大内宿、猪苗代がメインで会津美里町は意外と分からない人がいい。会津美里町は向羽黒山城、瀬戸物、伊佐須美神社、法用寺などたくさん魅力がある。寺社仏閣を紐解けば、会津仏教の発祥が会津美里町である。法用寺を紐解けば、天台宗において東北で一番ではないか。ただ、そういうことをお客さんに伝えると、知らない人が多い。「初めて知りました。会津美里町ってそんなところなんですか。ぜひ行きたいです。」と言われることが多い。会津美里町には素晴らしいものがたくさんあるので、もっとPRしていけばいいと思う。フルーツは本当に美味しいし、米も美味しくて食文化が豊かである。これをもっと強調してPRしていけば、美里に行こうという方が増えるのでは。

情報発信が追いついていないので、まだ客足が伸びていないだけだと思う。

また、観光資源がまだ眠っているものもある。日本一のブナ林である。ブナ林を観光資源の一つとしてもっとPRしていきたい。観光協会の人材が不足しているという話もあったので、観光客誘致のためにもぜひ我々民間事業者をうまく活用していただけたらと思う。

(委員長)

町の方は、素晴らしいものがたくさんあることを知っているが、町から一步外に出ると誰も知らない。伊佐須美神社が再建されるが、誰も知らないものが新しくなっても誰も興味を示さない。新しくなったら魅力が出るだろうと思ったら大間違いであって、あの伊佐須美神社が新しくなると話題になるには、今から再建に向けてPRしていかなければならない。再建の過程を発信して知名度を上げていくことによって、完成したときに集客力が上がるのでないか。

次にL委員の意見はどうか。

(L委員)

皆さんのお話を聞いていると、まだまだ知らないことがたくさんあるなと思った。美里町に住んでいても私のように美里町のことについて知らない人はいっぱいいる。左下り観音とか法用寺とか中田観音の話であって知らないことがまだまだたくさんある。そういうのを効果的に知ることができるのは、なぜだろうと考えた時に、観光と教育って似ているなと思った。子どもたちの地域学習で、ガイドを付けて歴史や成り立ち等を説明していただけたら、きっと子どもたちも自分たちの住んでいる地域の理解も深まるだろうし、その子どもたちが町外に出た時に、美里町がこういうのがあるよって説明できるのが一番の営業マンなのではないかと思う。住んでいる人が自然と情報発信できるような環境が大事。住んでいる

人たちが充実するのが観光の一番の目的だと思うので、やはり地元で開催されるイベントでどんどん横の繋がりが増えていけばいいと思う。

あと、美里町は町外から来た時に困ることは、トイレの場所とちょっとした物を買う場所、お土産を買う場所がないとよく言われる。道の駅がないことは大きな課題ではあるが、だからといって道の駅を作らなきゃではなくて、何か困らない程度でいいので、例えばワイナリーを休憩所として使っていていいですよといった看板を立てるとか、何かそういう形でできることをやっていけたらいいと思う。看板を立てるにもお金がかかるので町で手伝ってくれたらいいと思うし、果樹園の期間中は簡易トイレを設置すれば来た人は困らないのではないかと思う。お客さんから何か聞かれた時に、案内する側も困らないというのができたらなおいいかなと思う。

(委員長)

子どもの頃からそういう感覚を身に付けていただくというのは大事だと思う。子どもたちが情報発信の仕方を考えて、外に発信することで、自分たちの町は観光という素晴らしいものがあると実感できるのではないか。

我々も観光面で色々なことを行っているが、一番欲しいのはお金である。人口が減少し、いろいろなもののコストが上がっていく中で、町が欲しいのはお金を落としてもらうことである。今までこの協議会でどうやったら集客できるかを散々協議してきたが、どうやったらお金を落とせる仕掛けができるかが、次の計画の中で柱になるのではないかと思う。

観光客は来て見て体験して食べて買わないと帰らない。ここまでやらないと旅行は簡潔しない。我々は美里町に来た観光客に持って帰ってもらうものを真剣に考えなくてはならない。売る場所の心配もあるが、その前にまず売るものを考えなければならない。その辺が次の計画の中では重要なポイントになるのではないかと思う。

昔のストーリーが繋がるような商品開発ができたらいい。町の歴史も分かって、地域の産業も活かして、何か特性があるようなものを皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

(3) 本年度目標について 第2次観光振興計画の策定

事務局より本年度の目標である第2次観光振興計画の策定について説明。

(4) スケジュール

事務局より第2次観光振興計画策定にかかる、協議会、アンケート、ワークショップ、パブリックコメントのスケジュールについて説明。

(5) アンケートとワークショップについて

事務局よりアンケート及びワークショップの詳細について説明。

アンケート：町のLINE登録者約3,000人を対象として、3地域の魅力的な観光スポットや観光に足りないものなどの設問を想定。

ワークショップ：観光に対する意識調査を目的として7、8月に3地域で実施予定。

(副委員長)

アンケートにペット観光を入れ込んでいただきたい。今、うちでドッグランを行っているが、ペットの利用は今後の観光の中では不可欠である。

(委員長)

どうの方がアンケートに答えるのか。

(事務局)

町のLINEは約3,000人が登録しているが、年齢層はまちまちである。
想定しているところは、2～3割の200から300くらいの回答数を見込んでいる。

(委員長)

アンケートは質問の仕方だとか、どのくらいの割合で答えが集まるかなどなかなか難しいところもあるので工夫をお願いしたい。
そのほか皆さんからご質問はあるか。

(G委員)

アンケートの対象者は町のLINE登録者約3,000人とあるが、町外の方には実施しないのか。

(事務局)

町のホームページにアクセスしてアンケートに回答していただくが、そこに町外からアクセスがあるのかとなると難しいのではと思う。
インターネットを活用して、町外の方に実施できる方法としては、観光協会のホームページやインスタグラムに頼らざるを得ない。

(G委員)

町内の方と町外の方で意見が変わってくると思う。
町内の方が「ここがいいよね!」と思う場所と、町外の方の「ここがいいよね!」と思う場

所が違ってくるのではないか。

(事務局)

前段でお話ししたとおり観光という目線でいくと、会津美里町は町外の方たちの選択肢にまだ入りきれていない部分があるので、まずは町内の方々をメインにその地域に住む人たちからその地域の魅力や、こういうところを売り出した方がいいという意見を中心に抽出したいと思う。町外の方の意見を取るのかどうかは今後検討していきたい。

(委員長)

アンケートは不特定多数に出すものなので、観光資源という言い方は避けた方がよい。観光資源という表現は少し分かりづらい。それから、観光スポットを選択する回答方式であるため誘導尋問になってしまう。これだと新しい観光が発掘されない。白紙にして記述式にしようと思えば集めにくいことはあると思うが、記述式でもいいと思う。

アンケートは書いてある中から選ぶ方が楽なので、本当に魅力的なものを発見したいのであれば、選択肢を与えずに書いてもらう方がよい。このやり方だと、この選択肢に集約してしまう。

6. その他

事務局より次回の第2回協議会について説明。

7. 閉会